

お母さん話(幼児に聞かす童話)

子鼠さんと玉蜀黍のお話

武田雪夫

さあ、これは、小さな小さな、かわいい子鼠さん玉蜀黍のお話ですよ。

まあ、よいお天気です。小さな小さな子鼠のチュウ助さんが、畑の中の道で遊んでいました。

あちらの方へ、チヨロ〜チヨロ、こちらの方へ、チヨロ〜チヨロ。チヨロ〜チヨロ、道を走ったり、小さい石を遊びこえたりして、ひこりでおまなく遊んでいました。

さうするに、むかふの方から、お百姓さんの小母さんが籠の中へ玉蜀黍を一ぱい入れて、かついで来ました。

お百姓さんの小母さんは、だん〜子鼠のチュウ助さんの方へ歩いて来ました。

あ、道のまん中に石があります。おやおや、お百姓さんの小母さんは、その石につまづいて、よろ〜こよろけました。

「わい、わい、わい。」

そのはずみに、籠の中から、玉蜀黍が、一本コロリンと道に落ちました。そして、子鼠のチュウ助さんの目の前にころがつて來ましたから、子鼠さんは、びつくりしました。

でも、チュウ助さんは、一生けんめいに大きな聲を出して、

「チュウく、小母さん、落ちましたよ。玉蜀黍が落ちましたよ。チュウくチュウ。」と言ひました。
するさ、小母さんは、

「はいく、誰ですか。さうも、ありがたうね。」と言ひながら、そこへ籠を下ろしました。そして、一休しながら、

「——おやく、子鼠さんですかい。まあく、ひそりで、おきなしく遊んでるますね。それでは、ご褒美に、この玉蜀黍を一本あげませう。さあ、ついでに皮をむいて置いて上げませう。はい、——ほくら。」
さう言つて、道に落ちた大きな玉蜀黍を上手に皮をむいてくれました。

チュウ助さんは、ほんこにうれしくなりました。あまりうれしくて、「ありがたう」も言へなくて、ただ、
かはい、聲で、

「チュウく、チュウく。」と、ないてばかりりました。

お百姓さんの小母さんは、また、玉蜀黍の入つた籠をかついで、

「子鼠さん、はいちやい。」と言つて、むかふの方へ、きんく行つてしまひました。

チュウ助さんは、ひきりぼつちになるミ、玉蜀黍をよく見ました。まあ、大きな大きな玉蜀黍ですミ。おいしいミ、お豆のやうな實が、一めんについてゐます。

そんなに大きな玉蜀黍では、小さな小さな子鼠のチュウ助さんには、ミても持てませんね。それでは、ミら〜一つ、こゝで食べて見ませう。チュウ助さんは、玉蜀黍のまん中をかじり出しました。

ボリ〜ボリ、ボリ〜ボリ。

まあ、おいしいミ、おいしいミ。

ボリ〜ボリ、ボリ〜ボリ。

チュウ助さんが、ひきりで、一生けんめいに玉蜀黍を食べてゐますミ、むかふの方から誰か來ましたよ。

まあ、誰でせう？

おや〜それは、お友だちの子鼠のチュウ子さんでしたよ。

チュウ子さんは、チュウ助さんを見つけるミ、

「今日は、チュウ助さん、そんなミころで、何をしてゐるの？おや〜、よいものをかじつてゐるのね。ま

あ、さうしたの？ わたしにも、少しかじらせて下さいな。」

さう言つて、チュウ助さんのそばへ來ました。

チュウ助さんは、

「はい、これは、たつた今、お百姓さんの小母さんから貰つて、ひきりで、かじつてゐたところですよ。こんなに大きな玉蜀黍です。さあ、一しよに食べませう。あなたは、こちらの先の方を、おあがりなさい。」

さう言つて、また、玉蜀黍のまん中を、ボリく、かじり出しました。

さうするに、チュウ子さんは、大へんによろこんで、

「さう、さうも、ありがたう。」と言ひながら、小さな小さな、かはい、歯で、玉蜀黍の先の方を、ボリく、ボリく、かじり出しました。

「まあ、おいしうござい、おいしうござい。」

ほら、チュウ助さんが、玉蜀黍のまん中をボリく、ボリく。

はい、チュウ子さんが、玉蜀黍の先の方をボリく、ボリく。

二ひきで仲よく、ボリく、ボリく、ボリく、ボリく。

するに、むかふから、また、誰か來ましたよ。

まあ、誰でせう？

おや、それは、お友だちの子鼠のチュウ吉さんでしたよ。

チュウ吉さんは、チュウ助さん、チュウ子さんを見つけたら、

「今日は、チュウ吉さんミチュウ子さん。そんなところで、何をしてゐるの？ おや〜、よいものをかじつてゐるのね。まあ、さうしたの？ ぼくにも、少しかじらせて下さいよ。」

さう言つて、チュウ助さんミチュウ子さんのそばへ来ました。

チュウ助さんは、

「はい〜、これは、たつた今、お百姓さんの小母さんから貰つて、チュウ子さんミ一しよに、かじつてゐたところですよ。こんなに大きな玉蜀黍です。さあ〜、一しよに食べませう。あなたは、こちらのものも、この方をおあがりなさい。」

さう言つて、自分は、また、玉蜀黍のまん中を、ボリ〜ボリ〜ミ、かじり出しました。チュウ子さんも、玉蜀黍の先の方をコリ〜コリ〜ミ、かじり出しました。

そこで、チュウ吉さんも、大へんよろこんで、

「さう、さうもありがたう。」と言ひながら、大きなく〜丈夫な歯で、玉蜀黍のも、この方をガリ〜ミ、かじり出しました。

「まあ〜、おいしいこと、おいしいこと。」

ほら、チュウ助さんが、玉蜀黍のまん中をボリ〜ボリ〜、ボリ〜ボリ。

はいチュウ子さんが、玉蜀黍の先の方をコリ〜コリ〜、コリ〜コリ。

そら、チュウ吉さんが、玉蜀黍のもこの方をガリく、ガリく、ガリく、ガリ。

ボリく、ボリ、ボリく、ボリ。

コリく、コリ、コリく、コリ。

ガリく、ガリ、ガリく、ガリ。

ボリく、コリく、ガリく。

ボリく、コリく、ガリく。

はい、それでは、これで子鼠さん、玉蜀黍のお話は、おしまひです。